

# 大学版画研究会 会報

# 4

1979.5

大学版画研究会会報3号で、カリキュラム委員の馬場さんが学科の問題として、版画史・版画概論を上げているので、それについての雑感を述べたい。

版画科発足如何に拘わらず、版画を専攻又は選択する学生の多い今日、西洋美術史、日本美術史、現代美術史等の一般教養課目、専門科目の中で版画史、版画概論を考えざるを得ない状態である。果してこれをだれが講義し得るのか具体的な所で困ってしまうのが現状である。版画の美術としての歴史があまりに若く、常に美術として傍系にあり、それ以前は印刷史的な性格によるために版画史のまとまった研究がなされていない。栃木美術館が1975年の日本版画を輪切りにして、展覧会と買上げを同時に行なった意味、又、昨年日本版画協会展の作品を全会員が国際美術館に寄贈した意味もまたそこにある。世界的に著名で、日本でももっとも研究されている浮世絵版画の例では、喜多川歌麿の制作した時代の1800年、浮世絵版画の総ての絵師、彫り師、刷り師、版本とその作品が輪切りで保存されていたら、あるいは江戸末期でもよい、それ等は大変有意義なものとなっているだろう。歴史はいつも後世に残った断片をつぎ合せたもので想像するしか無いのが残念である。美術家連盟でも明治以来の現代日本洋画史が夭折した異端的画家の断片によってのみつくられつつあると見る人も多く、美術評論家各人の論評とは別に、画家自身がその時代の資料をまとめ残して行きたいと考えている。その一つが万博跡の国際美術館の出発となったのである。連盟自身も現存する大家達にその時代のこと、自身の画業のことなどをテープにおさめて保存することを始

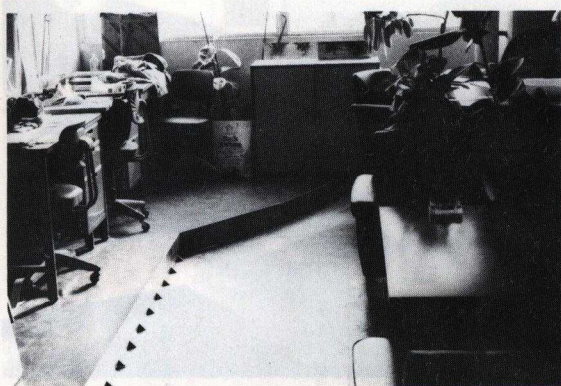
めている。美術史が残った作品を手掛かりに個々の画家による点の連続になっているが、歴史の背景が欠落しがちな所に問題がある。印刷手段しか無かった時代から写真、映画、ビデオ、録音テープと言った様々な記録手段を持つ現代、個人の私見と評論による美術史では無く、又、個々の画家の作品の断片をつないだ美術史で無い資料として生の美術史を残したいとする意向が今盛り上りつつある。

版画にしても創作版画運動が起こり、日本の現代版画が作られて来たのがつい昨日のこのようであり、それに参加した人達もつい近年まで我々の生活の中にあった。たとえば恩地孝四郎は昭和30年、1955年まで生きていたし、山本鼎は昭和21年、1946年没である。私達はその先輩達の何を残し得たか。

先日、八王子の学校の帰り、笹島喜平氏宅を小作青史、河内成幸君と私の3人で訪問した。学校の途上にあるのでかねがねおたずねしたいと思っていてようやく果したのだが、話は尽きず、恩地さんのこと、棟方志功氏のこと、国画会、版画協会、版画院のこと、会と人が入りまざって生きた版画史を聞く思いで小作、河内君共々写真機とテープ持参を忘れたことを残念がったことである。時間を見つけては先輩諸兄の自宅を訪問、写真とテープで10年、20年後の版画科、版画史の資料を作りたいと思っている。

戦争を知らない子供達がふえるように歴史は確実に日々作られているのだと言う実感が版画科をどうするか、版画史、版画概論をどうするか、明日のカリキュラムと同じ時間の中で彷彿としているのである。

## ▶ 各大学版画研究室

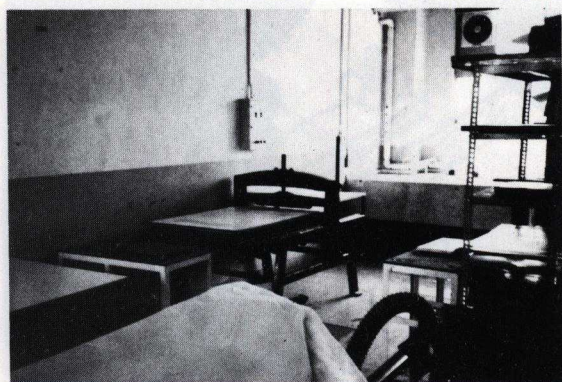


嵯峨美術短期大学

木村秀樹

嵯峨美術短期大学は京都市の北西部、嵐山近く桂川ぞいにあり、開校は昭和46年今年で9年目に入ります。男女共学で全校生徒数1,000人余り、版画科は開校当時より独立した科として設置されています。1学年17人、2年制の専攻科生が各3名ずつ計40人ほどで、本学の他科にくらべても小さな科です。カリキュラムは、1年次の前半をガイダンス期間としてごく基礎的な美術の教養一般をできるだけ広く取得できるように、ほぼ1日単位で内容を変え実習を行ないます。後半は版種別に基礎技術習得にあてます。2年生になると年3回の変遷を認めて、版種を自由に選択します。制作室は版種別にスペース割りがしてあり、木版工房なり銅版工房なりへ一応籍をおく事になります。工房相互の行き来は生徒の制作する作品の内容により自由にしてあります。専攻科生に対してもほぼ同様のあつかいです。

問題はかぎりなくあります。どれも版画科の存立に直接かかわる事で頭がいたいわけです。大きさに言えば版画の理念というか自律性が真に暗中模索の状態にあるからだと思います。教師の教えられる事といえば基礎技術以上のものではありません。それ以後の展開に関しては、学生と教師が同じレベルで共に考えてゆくという姿勢が必要です。学生の主体的な自由な発想を重んじ、それ等が常識的な版画というワクをこえてゆく事がのぞましいと思っていますし、その時あいまいながらスタッフの側が想定していた版画というものも明らかになるでしょう。その時否すでに今それぞれの方向へ足をふみ出さなければなりません。



九州芸工大学芸術工学部

吉田 東

### 大学の概要

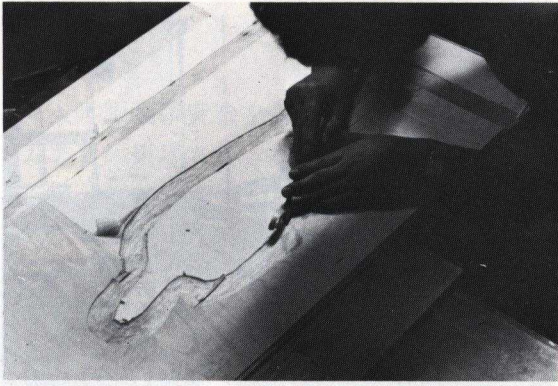
**目的** 本学は、教育基本法および学校教育法の精神に則り、技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基本である科学と、人間精神の最も自由な発現であるところの芸術とを研究し、技術と芸術との総合によって人間の要求に最も適応した生活と情報の環境を計画設計する設計家の育成を目指している。本学ではこのために人文、社会、自然にまたがる科学的な知識の教育と芸術的な感性の訓練とを併せ行なっている。

本学には「環境設計」、「工業設計」、「画像設計」、「音響設計」の4学科が設けられているが、「音響設計」を除いた他3学科の基礎教育科目として、基礎造形Ⅰ～Ⅳがあり基礎造形Ⅰの中で版画実習を行なっている。

版種としては、エッチング、リトグラフ、木版及びシルクスクリーンの実習が行なえる設備がある。

版画実習は、前記本学の教育目的を十分カバーできるものとして行なっている。

又、本学には研究生制度があり、現在福岡教育大学、武蔵野美術大学及び本学の卒業生3名の研究生が在籍している。

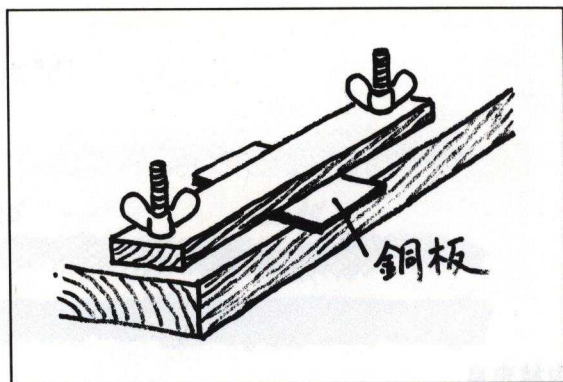


## 野田哲也

ぼくの作品はまず写真を撮ることから始まります。作品にしたいと思う物体(モチーフ)があると、ふつう人がスケッチや素描から始めるように、ぼくは写真撮影から始めるわけです。作品が日記ですから、日常の何かを記録することは基本的な目的になります。その点、写真機は手近かにある非常に便利な材料といえます。三脚を広げたりするときは別ですが、撮影そのものは、ほんの一瞬のうちに完了します。撮影に使うフィルムはすべて白黒のものです。これは自分で簡単に現像もできますし、むずかしい技術が必要としません。現像したフィルムは、モチーフの大きさや構図を考えながら引伸しをするわけですが、引伸しの印画紙には、プロジェクションペーパー(メーカーによってはCH)という無光沢の薄い紙を使います。この紙はふつうマイクロフィルムなどの引伸し用として使われているらしく、一種の記録紙で、ゼロックスに使われている紙や上質の白いわらばん紙とほとんど同じ感じのものです。ですから簡単に鉛筆や水彩で加筆も修正もできます。ご承知のように写真機のレンズとわれわれの目は構造上あまり変わりありませんが、写真機は撮影する人の意識しないところまで写し出してしまいます。予想もしなかったものがバックに写っていたりして、ときにはもちろんいいこともあるでしょう。しかし、まったく不必要なものまでが画面にあって困ることさえあるわけです。とりわけ、それを造形性ということから、改めてひとつの作品にしたいと思うときはなおさらのことではないかと思えます。また、このようなとき機械的な処理だけでは自分の感性を失ってしまうような気もおきてくるでしょう。そういうときに、ぼくは不用な部分を鉛筆や筆で消したり、必要な部分の調子や形に手を加え、写真の修正をするわけです。いちおう画面の中にある物の確認をするといった方がいいのでしょうか。いや、主題をそこなわないように

料理をするといった方が分かりやすいかも知れません。さらにまた、そうしたところにはぼくは木版で色を加えたりもしています。木版にする部分はあらかじめこのときに決めておかなければなりません。決ったらその部分を薄美濃紙に転写(トレース)して、シナベニヤの版木に貼り、ふつうの木版画の技法で版をつくります。

次に、前に手を加えた写真をトーシャファックスという謄写版の自動製版機にかけて製版をします。学校ではこの機械を職員室や事務室などでご覧になった方もあると思いますが、ふつう試験問題をプリントしたり通達やチラシをつくったりするために使われているようです。一種のコピーの機械ですから、使おうと思えば写真製版にも応用できるというわけです。もちろんまったくその通りに製版することはできません。しかし、写真のもつ生々しさがこの機械を通して濾過され時間を停止させたような変質をし、ぼくの望みのイメージを生んでくれます。強弱の調節もある程度できますから、コントラストを変えて製版もできるわけです。製版しようと思う原稿なり写真を一方のドラムに巻き、それに光源ランプからでる光点をあてて、濃淡に応じて変化する反射光を電流の強弱に変え、ドラムの回転によっても一方のドラムに巻きつけたビニール原紙に針の先端で放電させて穴をあけ、自動的に孔版を作るわけです。製版が終われば台紙からビニール原紙だけをはがしてシルクスクリーンに貼って謄写版と同じ要領でローラーで刷るのですが、そのためには先に用意した木版をまず刷る必要があります。ぼくは紙には楮の生漉き紙を使っています。これは和紙としてはごく一般的なものでしょう。これにまず木版の部分を刷ってその上からトーシャファックスに製版した写真をかけるわけです。しかし、なにぶんトーシャファックスは事務用のものですから、製版するサイズ



も決っていて限度があります。ですから、大きな画面を刷るときは、とうぜん部分的に刷って全体を合わせなければなりません。ぼくの作品で大きめのものには画面に継ぎめの線がでているのはそのためです。それは仕方のないことでしょう。

ずいぶん、おおざっぱに書きましたが、ぼくはこんな具合にいちおう作品を仕上げています。以上からお分りいただけると思いますが、ぼくはモチーフにしても、技法にしても、日常身の回りにあるものを使っているにすぎません。

### 銅版用「小道具」

宮下登喜雄

この原稿依頼をうけたのは去年のことです。女子美大での会合の折、数人で雑談しているうちにたまたまアクアチントボックスのことが話題になりました。一部の技法書にフィゴを使って風を吹き込み、松脂粉末を密閉した箱の中で舞い上らせ銅板を挿入してアクアチントの製版をするというのが紹介されています。しかし、これは実用には不向きなのです。そんなことを話していたところ会報係にそのことを書いてくれと言われました。

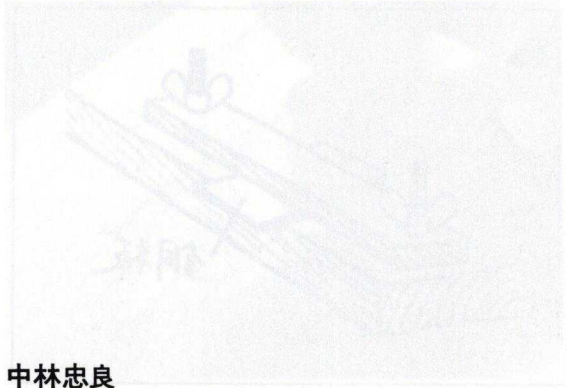
上記の方法が実用には不向きな理由は簡単で、箱の中に空気を吹き込むと箱の中に気圧が急に上り松脂粉末を舞い上げた空気が隙間から噴出してしまいます。インク、グランド等、工房内は松脂粉末が飛

散してはならないのです。

その後、年末の雑用などで原稿のことを忘れてしまい、年が明けてからは急に欧米に旅行することになり、たちまちその準備に追われて原稿のことを忘れ、旅先で時折り気にしたことはありましたが、彼の地の工房などを廻っていると、とても性態の良いアクアチントボックスを見るに及び、今さら私ごとき者が書く必要はないのではないかと思ったりしました。

帰国後、小品エッチングを50点を作ることになり、銅板のヤスリがけをしてみても、とても銅板を押えるのが不自由なのに気付きました。7cm×10cmの銅板の四方を45度にヤスリをかけるのは意外に銅板を固定しにくく、足で押えてスリッパの指先を削ってしまったり靴下を破いたりしてしまいました。そして最近、ある大学で銅版の集中講義を担当してみても、ここでもヤスリがけが不得手な人が多いことを知りました。そこで私は、学生達、特に女子学生の多い現状ではこんなものもあっても便利なのではないかと試作してみたのが図に示したような素朴な用具です。そして私自身、実際使ってみると、とても楽に仕事が出来、お蔭で前記の50点の小品のヤスリがけにも役立ちました。銅版と接触する部分には荷造り用布テープを貼ると銅板の表面を傷つけることも防げるし、すべり止めにもなります。この用具は小さいサイズの銅板を使用する時にはとても便利です。学校などで作業台(机)にドリルで穴をあけたりすることが禁止されている場合は厚手の丈夫な板を使ってもよいと思います。

子供の工作のような、用具とは言えないほど簡単なものですが、版画実技が大学教育の中で普及してからの歴史が浅い現状では、こんなものと思われるものでも情報を交換して行くことも無意味ではないと思っているので敢えて記した次第です。



中林忠良

## 「腐蝕液の化学II」

腐蝕液の成分と腐蝕の化学反応について、又それらの危険・有害性を〈腐蝕液の化学I〉として会報2に詳述した。今回は、それぞれの腐蝕液がどのような腐蝕効果をもたらすのか、いわば眼と手で仕事をする制作者側からのマチュールの問題として、腐蝕液を検証してみようと思う。

腐蝕によるマチュールは次の5項目の複合、重合的要因によって種々に作られると考えられる。

- 腐蝕液の種類
- 腐蝕液の濃度（ボーメ）
- 腐蝕液の温度
- 腐蝕液中の酸化物の量（液の新しい古い）
- 腐蝕時間

いってみれば、腐蝕とはこれらの複合的要因を作家の経験的な眼を通して、腐蝕液の働き方を、時間という化学反応の進行の中でどのように制御するかによって、最終的なマチュールを版に蝕刻することであると云えよう。

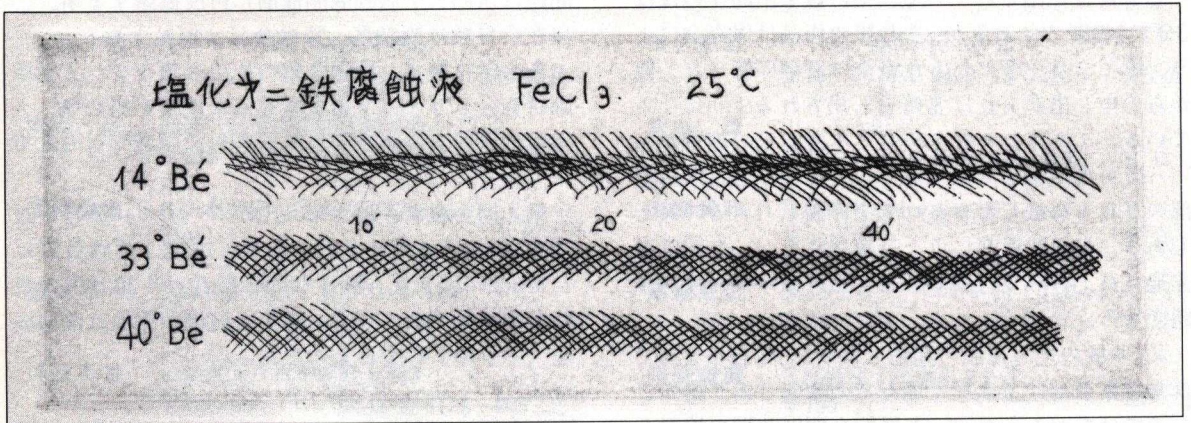
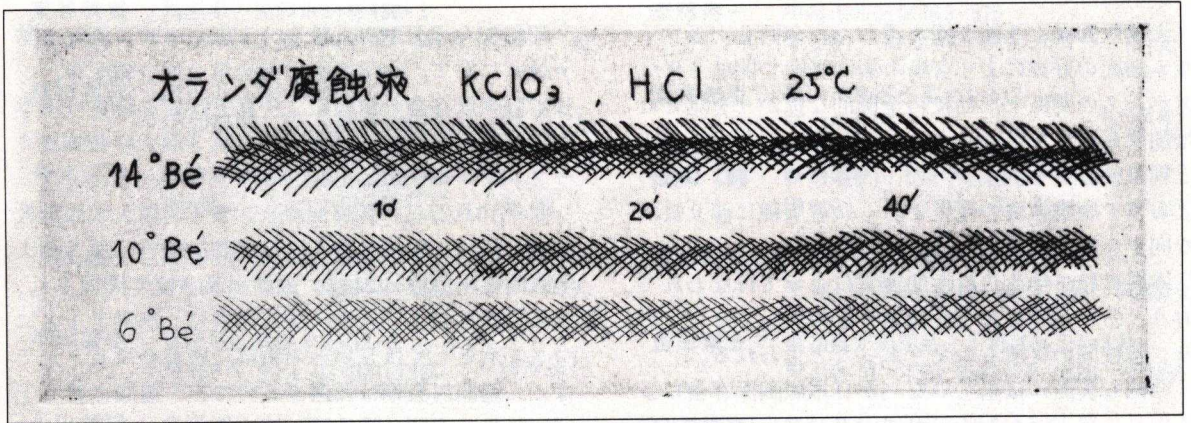
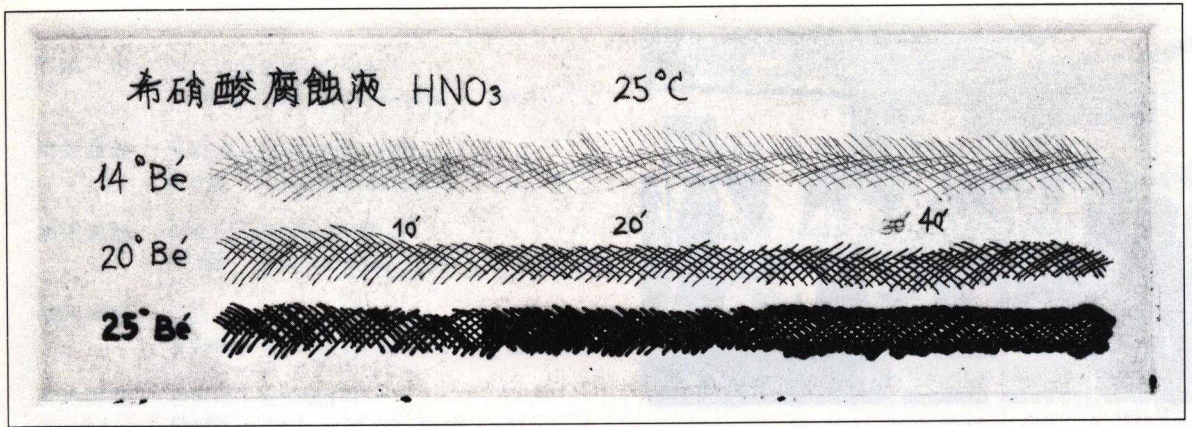
さて、右頁に載せた三種の腐蝕例を見ていただきたい。上から希硝酸腐蝕液、オランダ腐蝕液、塩化第二鉄腐蝕液による、それぞれの濃度差と時間差による腐蝕の相違を示してみた。いずれも25℃（夏のため高温）の液温で10分（10′と表示）、20分、40分の腐蝕で、濃度は一番上の14° Be′（14ボーメ）だけを統一、あとは希釈量によってそれぞれの濃度に変えている。それぞれの腐蝕例のうち中央の濃度が、この液温では最も適当と思われる濃度である。

この三種の腐蝕例を見て、まず最初に気付くことは、上の二種の腐蝕と下の塩化第二鉄による腐蝕とは、その腐蝕の仕方かなりの違いがあるという点であろう。腐蝕時間の差による腐蝕の強弱は各液とも共通しているが、濃度差による腐蝕は、上の二液が顕著な変化を見せているのに対して、塩化第二鉄腐蝕液は濃度差による変化がほとんど見られないこ

とである。このことは素材研究2の訂正文の中で触れておいたが、塩化第二鉄腐蝕液は酸によって化学反応する希硝酸及びオランダ腐蝕液とまったく違った腐蝕反応をするからである。つまり、この腐蝕は銅が鉄イオンを含む溶液に接してイオン化し、液中に移行していった過程なのである。銅がイオン化するだけの鉄イオンがある間は、濃度に関係なく同じ程度に腐蝕が進むものと考えられる。この液が流動して銅に触れる時にもっとも腐蝕が進み、鉄イオン含有量が少なくなった時（鉄イオンは鉄サビとなって沈澱する）に腐蝕が極度に鈍くなるのも、この反応の性質から理解されよう。ただ、この液の濃度は線の荒れには多少の影響があつて、37~40° Be′がもっとも荒れない線を作ると顕微鏡観察の報告がある。

希硝酸とオランダ腐蝕液は、濃度によって腐蝕反応が著しく違うから、線の荒れ具合を時間だけでなく、濃度を調整することで好みのマチュールを作ることにも出来よう。一般に弱い濃度で時間をかけた方が、強い濃度での短時間勝負よりは美しい仕上がりを見せる。この二つの液の腐蝕の相違は、希硝酸の方が一酸化窒素の気泡を生じる点で顕著であるが、この気泡の功罪をいろいろな腐蝕の場で観察すると、腐蝕された線の底や面の縁は無数の虚（ウロ）が連った状態になっていて、均一な腐蝕が妨げられていたことがわかる。この気泡は、一時的にせよ酸が銅に接触するのを絶つばかりでなく、気泡の生成によってグラウンドの縁をもち上げ剥すこともわかる。腐蝕反応は銅が酸に触れていれば等しく反応するので、垂直方向だけでなく左右にも同じように働くものであるが概してオランダ腐蝕液が線の幅を広げずに腐蝕するというのは、この気泡を生じさせない反応性質からくるものと思われる。塩化第二鉄液も同じ理由でシャープな腐蝕が得られる。

希硝酸腐蝕液による腐蝕例を見ると、25° Be′では



20分の腐蝕ですでに書きこまれた線の中のグランドが剥げ、幅を広げた線がお互いに連繋してしまう状態が見られる。さらに時間をかけると線の集合が一つの面としての形にまで拡大されてしまっている。高濃度の液の刺激性と、気泡の盛んな発生が相俟ってグランドを剥し版に食いついてゆく様が見てとれる。このことはアクアチントでは松脂の粒子を剥して、結果的にインクの引っかかりのない醜いマチェ

ールを作ってしまうのであるが、一方、ディープエッチの底に粗面を作ったり、ソフトグランドやリフトグランドの破れ切れなかったグランドに穴をあけたり、なによりも腐蝕が始まったことを気泡の発生で読みとれる等、功も又あるのがこの液の特性である。

(希硝酸腐蝕液による腐蝕例のうち14° Béの10分の部分は、腐蝕による凹みでなく、筆圧によるニードルの傷である。)



### 馬場禎男

大学版画展も3回と回を重ねた。今回も大阪フォルム画廊の好意により会場の無償提供で開催された。スペースの関係上出品校の全国的な拡がりを見せた増加にも拘わらず出品点数はそれぞれ6乃至2、3点と制限せざるを得なかった。内容についてはご覧のとおりで版画教育の充実とともに各版種に涉り質的な向上を見せている。

本展は総て学生の自主的運営によって行なわれており、その意味では学生諸君も皆張切ってやっており、学校間の交流もかなりあったと思われる。

今回も表面には出ていないが日本版画保存会による作品の買上げが行なわれており、学生には買上賞として賞金が出されている。その数も出品作のほぼ3分の1程度ではあるが、それ等の作品は保存会により、総てスライドにとられ完全に整理保管され、他からの申し出があれば常時貸し出されるようになっている。この買上の件をめぐり本展本来の趣旨からいって可否が論じられており、あるいは出品作品全部の写真を掲載したカタログを作製したらとの考えもあり、本展開催前に色々論議されたが、今回は従来通り買上の形で行なわれた。これは今後の検討課題であろう。

又、本展の地方巡回の問題もあろう。場合によっては常時東京だけではなく地方での主催もあり得てよいのではなからうか。一方展覧会開催時期の検討もなさるべきではなからうか、いつも会場の関係で夏休み開始期、あるいはその後に行なわれているが、学生の制作状況を見るとどうしても夏休み後に盛り上っているようで、出来たら秋の時期の開催が望まれるが、如何であろうか。

最後に、全国的な規模で行なわれるので地方からの作品の搬入出の問題があり、毎回若干のトラブルを起している。これも次回展では、何とかうまく解決したいと思われる。

### 東谷武美

昭和53年7月31日。総会。大阪フォルム画廊5階会議室に於て。大学版画研究会第3回会報配布。日本版画保存会の依頼により買上げ作品審査(大学版画研究会会員)。会議終了後、第3回大学版画展オープニングパーティ出席。

同年10月27日。第17回会合。女子美術大学版画教官室に於て。田村文雄氏より展覧会報告。第3回大学版画展出品校は21校、賛助出品3校で開催され、出品点数は92点。次回大学版画展は、出品者1名につき1点としてほしいとの希望。展覧会反省としては、二週間の会期は長過ぎるので、一週間で打ち上げ、後半一週間は選抜展とする等の案が出る。この問題は次回大学版画展開催前に再度協議する事。現在会員数は約70名、賛助会員は31社となる。

各大学に於て、版画常勤の先生も増えて、大学版画研究会カリキュラム試案を基に授業を組む等、大学版画研究会の本来の目的が明確に位置づけられて来ている。

第4回会報は、清水昭八氏がヨーロッパ旅行中なので、渡辺達正氏が代行する事に決定。前回会報は1,775部印刷され、新日本造形K.Kより30万円の賛助金が賛助されている。第4回会報の部数は前回回数(多少増)程度のものとする。



## ▶ 会員名簿

阿部 浩	千代田区外神田2-18-7 〒101 TEL 03-251-1474	武蔵野美大	清塚紀子	板橋区幸町13-5 〒173 TEL 03-955-2300	造形大
相笠昌義	座間市立野台540 〒228 TEL 0462-54-0279	女子美大	木村秀樹	宇治市伊勢田町名木2-1-127 〒611	嵯峨短大
相沢美則	杉並区久我山5-1-22 〒168 TEL 03-334-9521	文化学院	小林清子	渋谷区笹塚3-36-3 富士見荘21 〒151 TEL 03-374-3762	女子美大
秋元幸成	滋賀県大津市大谷町24-14 〒520 TEL 0775-25-7927	滋賀大学	小林基輝	目黒区洗足2-25-17 〒152 TEL 03-781-9529	女子美大
有地好登	所沢市上安松221-1 〒359 TEL 0429-44-6538	日 大	糸野憲治郎	愛知県愛知郡長久手町長湫下権田104-1 茜荘14号 〒480-11 TEL 05616-2-0978	名古屋造形短大
東谷武美	埼玉県上福岡市駒林436-3 〒356 TEL 0492-63-4779	一 般	斎藤寿一	川崎市幸区塚越3-375 〒210 TEL 044-522-2007	和光大
稲田年行	町田市三輪町1939 〒194-01 TEL 044-988-3339	岐阜大	酒井忠臣	福岡市東区松香台1-112 〒813	九州産業大学 芸術学部
今井治男	弘前市学園町1-1 弘大宿舎32-4-32 〒036	弘前大	笹本 純	秋田県秋田市泉字嶽根166 三浦方 〒010 TEL 0188-33-5261	秋田大
小野克子	昭島市西武蔵野1388 〒196 TEL 0425-43-0891	女子美大	清水昭八	小金井市梶野町4-16-27 〒184 TEL 0423-83-3733	武蔵野美大
小作青史	世田谷区羽根木2-32-6 〒159 TEL 03-321-7221	多摩美大	島田章三	愛知県愛知郡長久手町芸大公舎5号 〒410-01 TEL 05616-2-0885	愛知芸大
小山松隆	千葉市花見川9-11-301 〒281 TEL 0472-58-3949	日 大	白木俊之	長野市川中島町今里868-15 〒381-21	信 大
大本 靖	札幌市中央区円山西町491 〒064 TEL 011-611-0722	北海道教育大	田村文雄	小平市学園西町2-12-8 〒187 TEL 0423-43-7282	女子美大
太田 広	神奈川県横浜市旭区鶴ヶ峰1-72-2 〒236 TEL 045-371-2561	名古屋造短大	武市 勝	山口市木町8-5 〒753 TEL 08392-4-8405	山口大
岡部昌生	札幌郡広島町字西の里379-211 〒061-11	札幌大谷 女子短大	高橋貴和	宮城県名取市名取ヶ丘5-1-1 〒981-12	宮城大
鎌谷伸一	横浜市金沢区平潟町31-1-814 〒236 TEL 045-781-1872	芸 大	津地威汎	徳島県徳島市吉野本町6-20-1 杉原マンション4号 〒770	徳島大
河西万丈	山梨県大月市猿橋殿上483-1 〒409-06 TEL 05542-2-6174	都留文化大	嶺野寿蔵	愛媛県伊予市灘町4丁目 〒799-21	一 般
河内成幸	多摩市桜ヶ丘4-26-33 〒192-02 TEL 0423-71-4687	多摩美大	中林忠良	埼玉県上福岡市駒林437 〒356 TEL 0492-63-1970	芸 大
加藤れい子	埼玉県狭山市入間川4-25-23 ハウス2008 〒350-13 TEL 0429-53-9174	女子美大	野沢博行	刈谷市井ヶ谷町広沢1 愛知教育大洲原寮17 〒448 TEL 0566-36-5895(研)	愛知教育大 美術教室
城所 祥	八王子市本町35-6 〒192 TEL 0426-22-5857	武蔵野美大	野田哲也	小金井市本町3-14-14 〒184 TEL 0423-81-9371	芸 大
北岡文雄	杉並区和泉2-27-8 〒168 TEL 03-328-3361	武蔵野美大	長谷川光輝	鎌倉市二階堂851 〒248 TEL 0467-25-1459	日 大

- |       |   |        |       |   |      |
|-------|---|--------|-------|---|------|
| 馬場 章  | 浦和市道祖土381-4 長沢荘<br>〒336 TEL 0488-86-6307          | 芸 大    | 山野辺義雄 | 日野市三沢850 高幡台団地6-501<br>〒191 TEL 0425-91-9456    | 東海大  |
| 馬場構男  | 横浜市金沢区富岡町1197-186<br>〒236 TEL 045-772-1770        | 造形大    | 山本文彦  | 茨城県新治郡桜村天久保 芸術専門学郡内<br>〒300-31                  | 筑波大  |
| 浜西勝則  | 泰野市千村742-151-508<br>〒259-13 TEL 0463-87-3779      | 東海大    | 横山 貞二 | 小平市上水本町1282 二蒸荘2号棟D号<br>〒187                    | 一 般  |
| 原 健   | 世田谷区野沢3-13-12<br>〒154 TEL 03-421-2980             | 造形・日大  | 吉原英雄  | 大阪府高槻市東五百住町3-21-32<br>〒569 TEL 0726-96-2286     | 京都芸大 |
| 平川晋吾  | 宇都宮市峰町350<br>〒150                                 | 宇都宮大   | 吉田 穂高 | 三鷹市井ノ頭1-13-40<br>〒181 TEL 0422-44-3923          | 女子美大 |
| 広畑正剛  | 世田谷区赤堤3-5-2<br>〒156 TEL 03-324-0532               | 玉川大    | 吉本 弘  | 愛知県愛知郡日進町岩崎元井ヶ7-97<br>〒470-01 TEL 05617-2-3565  | 愛知芸大 |
| 深沢幸雄  | 千葉市鶴舞308<br>〒290-04 TEL 043-688-2034              | 多摩美大   | 横田嘉雄  | 国分寺市本多4-17-6 ふじの荘6号<br>〒185                     | 一 般  |
| 福岡奉彦  | 狭山市入間川4-25-23 ハウス2006<br>〒350-13 TEL 0429-53-7027 | 女子美大   | 渡辺達正  | 調布市上石原2-20-1 箕輪コーポ201号<br>〒182 TEL 0424-87-9476 | 多摩美大 |
| 吹田文明  | 世田谷区砧3-33-4<br>〒157 TEL 03-417-7123               | 多摩美大   | 渡辺 満  | 相模原市橋本5-25-5<br>〒229                            | 多摩美大 |
| 細田政義  | 世田谷区祖師ヶ谷3-39-8<br>〒157 TEL 03-482-3052            | 女子美大   | 渡辺明信  | 文京区向ヶ丘1-2-5<br>〒113 TEL 03-813-9050             | 文化学院 |
| 前川 直  | 岩手県盛岡市茶畑1-1-6 グリーンビレッジ<br>C-411 〒192-03           | 岩手大    | 廖 修平  | 杉並区荻窪1-1-19<br>〒167 TEL 03-391-4554             | 筑波大  |
| 舞原克典  | 宇山市川田町1548-13<br>〒524 TEL 07758-3-0028            | 京都芸大   | 梅津祐司  | 板橋区蓮沼9-4 越路館103<br>〒174 TEL 03-965-8918         | 芸 大  |
| 松川幸寛  | 狛江市宕戸北4-1-1 土屋方<br>〒201 TEL 03-488-4967           | 多摩美大   |       |   |      |
| 松浦 昇  | 岐阜県大垣市上面二丁提唐<br>〒503                              | 大垣女子短大 |       |   |      |
| 松島順子  | 大田区田園調布4-29-25<br>〒145 TEL 03-721-3062            | 一 般    |       |   |      |
| 馬淵 聖  | 神奈川県茅ヶ崎市芹沢2511<br>〒253 TEL 0467-51-1497           | 女子美短大  |       |   |      |
| 皆川孝一  | 東久留米市神宝町1-8-8<br>〒180-03                          | 日 大    |       |   |      |
| 宮田克人  | 高知県高知市朝倉乙870<br>〒780                              | 高知大    |       |   |      |
| 宮下登喜雄 | 府中市新町1-12<br>〒183 TEL 0423-61-5634                | 福岡教育大  |       |   |      |
| 村上文生  | 京都市右京区太秦原面影町6-1<br>〒616                           | 京都芸大   |       |   |      |
| 望月詩子  | 西多摩郡五日市町伊奈810-4<br>〒190-01 TEL 0425-96-1215       | 一 般    |       |   |      |

## ▶ 編集後記

会報4号は、1月か2月に発行の予定が、端午の節句もとうに過ぎ、はや初夏の感じすらする季節と成り、ようよう発行と成りましたことを編集スタッフ一同お詫びいたします。

会報4号は、前号より8ページ削り10ページで、版画史、技法、研究報告が中心に成りました。カリキュラム問題は今回お休みです。前回第3回の大学版画展報告に使った写真は、良いのがなくて困りました。次回は展覧会全体の感じがつかめる写真を載せたいと考えております。研究会に関する活動、会報へのご提案、ご意見がございましたら事務局までお寄せ下さい。

編集スタッフ一同

### 大学版画研究会 会報第4号 1979年6月

編集スタッフ 有地好登／浜西勝則  
松島順子／渡辺達正  
発行 大学版画研究会  
印刷 有限会社 西川

## ▶ 賛助会員名簿

- |                        |   |                  |  |
|------------------------|---|------------------|--|
| 新日本造形                  | 中野区新井1-42-8<br>〒165 TEL 03-389-1221                           | 画 箋 堂            | 京都市下京区河原町五条上ル<br>〒600 TEL 075-791-6131         |
| サクラクレパス                | 千代田区神田三崎町3-1-16<br>〒101 TEL 03-263-4221                       | ク ラ タ 商 店        | 大阪市鶴見区茨田諸口町1118<br>〒538 TEL 06-911-6561        |
| ヌーベルセンター               | 千代田区神田三崎町3-1-16<br>クレパスビル内ヌーベル<br>〒101 TEL 03-262-4221        | アート・コア・<br>ギャラリー | 京都市中京区寺町通り三条下ル一筋目東入ル<br>〒604 TEL 075-223-1760  |
| 大阪フォルム画廊               | 中央区銀座6-3-2 ギャラリーセンタービル5階<br>〒104 TEL 03-571-0833              | 酒 井 民 雄          | 大垣市郭町3丁目 酒井書店<br>〒503 TEL                      |
| 日本版画保存会                | 川崎市多摩区登戸3460 吉沢英哲方<br>〒214 TEL 044-911-9041                   | 菊 田 商 店          | 文京区本駒込3-8-2<br>〒113 TEL 03-821-7131            |
| 渡辺木版美術画舗               | 中央区銀座8-6-19<br>〒104 TEL 03-571-4684                           | 横 田 嘉 雄          | 国分寺市本多4-17-6 ふじの荘6号<br>〒185 TEL                |
| 山 田 商 会                | 中央区八重州5-5<br>〒104 TEL 03-281-1667・8538                        | 武蔵野美術学園          | 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7<br>〒180 TEL 0422-22-8171        |
| レッドランタン版画舗             | 京都市東山区新門前通り仲之町236<br>〒605 TEL 075-561-6314                    | シ ロ タ 画 廊        | 中央区銀座7-10-8 高橋ビル地下1階<br>〒104 TEL 03-572-7971~2 |
| 萩原市蔵商店                 | 千代田区神田紺屋町43<br>〒101 TEL 03-256-3591                           | 養 清 堂 画 廊        | 中央区銀座5-5-15<br>〒104 TEL 03-571-2471            |
| 芸 大 画 翠                | 台東区上野公園12-8 東京芸術大学内<br>〒100 TEL 03-821-7056                   | 阿部出版版画芸術         | 目黒区上目黒4-30-12<br>〒153 TEL                      |
| 光村図書出版                 | 品川区上大崎2-19-9<br>〒141 TEL 03-493-2111                          |                  | (順 不 同)  |
| ペ ン テ ル                | 千代田区東神田2-1-6<br>〒101 TEL 03-866-6161                          |                  |  |
| マルチプルアートセンター<br>(乃村工芸) | 港区芝浦4-6-4 乃村工芸社<br>〒108 TEL 03-455-1171                       |                  |  |
| ギャラリーカプセル              | 中央区銀座8-16-10 B401 堀江強志<br>〒104 TEL 03-541-4676                |                  |  |
| びけん (本店)               | 世田谷区尾山台3-33-5<br>〒158 TEL 03-702-2118                         |                  |  |
| 梶 原 商 店                | 渋谷区上原2-33-8<br>〒151 TEL 03-466-6117                           |                  |  |
| 文 房 堂                  | 千代田区神田神保町1-21<br>〒101 TEL 03-291-3441                         |                  |  |
| 日 動 画 廊                | 中央区銀座5-3-16<br>〒104 TEL 03-571-2553                           |                  |  |
| 画 荘 ヴィナス               | 新宿区西新宿1-15-13 胖ビル内<br>〒160 TEL 03-346-2728                    |                  |  |
| 版画ギャラリー                | 京都市左京区熊野神社東入ル 京都ハンディ<br>クラフト・センター 6F<br>〒606 TEL 075-761-0345 |                  |  |

